

令和7年度産業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰受賞者

稲葉 敦（いなば あつし）

一般社団法人日本LCA推進機構 理事長（72歳）

【略歴】

1981年	通商産業省 工業技術院公害資源研究所 入所
2001年～2008年	独立行政法人産業技術総合研究所 ライフサイクルアセスメント研究センター長
2005年～2008年	東京大学人工物工学研究センター 教授（併任）
2008年～2009年	独立行政法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 副部門長
2009年～2020年	工学院大学 先進工学部 環境化学科 教授
2020年～	一般社団法人日本LCA推進機構 理事長
1993年～	ISO/TC207（環境管理）/SC5（ライフサイクルアセスメント）国内委員会 委員・委員長、日本代表エキスパート、コンビーナ
2013年～	ISO/TC207（環境管理）/SC7（温室効果ガスマネジメント）国内委員会 委員
2019年～	ISO/TC323（循環経済）国内委員会 委員
2020年～	ISO/TC207（環境管理）/SC3（環境ラベル）国内委員会 委員長
2020年～	ISO/TC322（サステナブルファイナンス）国内委員会 委員
2024年～	ISO/TC308（加工・流通過程の管理）国内委員会 委員
2011年～2015年	日本工業標準化調査会（現 日本産業標準調査会、JISC） 標準部会 部会長、環境・資源循環専門委員会 委員長

【功績概要】

- 製品やサービスの環境影響を評価する手法であるLCA（ライフサイクルアセスメント）の分野において、1993年のISO/TC207（環境管理）/SC5（LCA）設立当初から今日に至るまで30年以上にわたり、日本代表エキスパート等として、国際標準化の推進に貢献してきた。
- さらに、LCAに関する深い専門的知見と広範な視野を活かし、環境ラベル、カーボンフットプリント、ウォーターフットプリントなど、多岐にわたる分野の国際規格策定にもエキスパートとして貢献している。
- 特に、ドイツ及びシンガポールと共同でコンビーナを務めて規格開発を主導したISO14040（LCAの原則及び枠組）及びISO14044（LCAを実施するための要求事項及び指針）は、LCAを実施する際の基盤となっており、以下の事例をはじめ、国内外において幅広く活用されている。
 - ESG投資において、投資先企業の環境影響を評価する際、LCAに基づく透明性の高

いデータがより重要となり活用されている。

- 欧州では自動車・電機・建設資材等の分野で取引条件としてLCAに基づく環境情報の開示（製品環境フットプリント(PEF)）が事実上必須となっており、日本企業もISO14040/14044に準拠したLCAを活用し対応している。
- グリーン購入法に基づく公共調達において、環境負荷の低減に資する物品・役務（環境物品等）の評価にISO14040/14044に基づくLCAが活用されている。
- JISCでは、標準部会長を務め、「新市場創造型標準化制度」の導入に向けた部会内での議論を主導した。また、環境・資源専門委員会委員長を務め、環境マネジメント規格等の整備・普及に尽力した。

【敬称略】